

2017 年 7 月 3 日

講演・シンポジウムに申込いただいた皆様へ

G 空間 EXPO2017 講演・シンポジウム実行委員会 実行委員長  
一般財団法人 衛星測位利用推進センター専務理事 三神 泉

G 空間 EXPO、講演・シンポジウム実施者説明会(ご挨拶)

皆様、本日はご多忙の中、G 空間 EXPO2017 講演・シンポジウム実施者説明会に御来席頂き、まことにありがとうございます。ただいまご紹介頂きました、一般財団法人衛星測位利用推進センター、専務理事の三神でございます。

さて、G 空間 EXPO2017 は、G 空間利用に特化した EXPO として、今回で 7 回目を迎えます。この EXPO は、従来東京で開催して参りましたが、昨年度より G 空間の高度利用に関する啓蒙の裾野を更に拡大するために地方への展開が始まり、昨年度は仙台、大阪で、今年は新潟、鹿児島にて開催される予定であり、まことに喜ばしいことと存じます。今年の EXPO における注目イベントの 1 つとして、講演・シンポジウムは、例年通り東京の国立未来館にて 10 月 12 日から 14 日の 3 日間にわたり、開催されます。私は、この「講演・シンポジウム実行委員会」の委員長を仰せつかっております。

さて、今年は、6 月 1 日にみちびき 2 号機が打ち上げに成功し、8 月 11 日には 3 号機、秋には 4 号機が打上げられ、2018 年度より、待望の準天頂衛星 4 機体制による 24 時間での高精度測位サービスが提供されます。また、今年 3 月の閣議決定により、新たな 5 年間に向けて第 3 期地理空間情報活用推進基本計画が策定されました。このような環境の下、今年の G 空間 expo における講演・シンポジウムの統一テーマ(※)は、「GIS と衛星測位のフュージョン(融合)」と致したく思います。具体的には、「GIS の飛躍的發展に向けた準天頂衛星の役割(仮称)と利活用」を意識した講演シンポジウム内容を皆様のご講演に組み込んで頂き、G 空間 expo の主催者側から準天頂衛星の活躍にエールを送ることができればと考えております。

弊財団は、G 空間という名称が早く社会に浸透し、そして産業界が準天頂衛星システムのみならずあらゆる手段の測位情報を利用した便利な社会を築くための新しい事業開拓にむけ、主として産業界における情報交換や相互啓蒙の場を提供して参りました。今回の講演・シンポジウムが、来年度から本格的に開始される高精度測位サービスを用いて創出される新たなビジネスや創出されるビジネスへの期待感などもあわせてご紹介頂く機会となれば、聴講者の方々の興味を更にそそることが可能ではないかと存じます。ぜひ、ご勘案いただければ幸いです。

では、盛大な G 空間 EXPO2017 になりますよう、皆様のご協力、ご支援をお願い申し上げ、ご挨拶に代えさせていただきますと思います。

以上

(※) 本年３月に閣議決定された地理空間情報活用推進基本計画における以下の１３の重点的に取り組むべき施策（シンボルプロジェクト）は、極めて重要な施策であり、また、統一テーマに大きく関連するものです。つきましては、これらに関する内容もご講演に取り込んで頂ければ幸いです。

【１３のシンボルプロジェクト】

１．国土を守り、一人一人の命を救う

- ①準天頂衛星システムを活用した避難所等における防災機能の強化
- ②津波浸水被害推計システムの運用
- ③Ｇ空間防災システムの普及の促進

２．新時代の交通、物流システムを実現する。

- ④高度な自動走行システムの開発・普及の促進
- ⑤準天頂衛星を活用した無人航空機物流事業の促進

３．多様で豊かな暮らしをつくる

- ⑥屋内空間における高精度測位環境づくりの促進
- ⑦Ｇ空間情報センターを活用した大規模イベント来場者等の移動支援

４．地方創生を加速する

- ⑧農業機械の自動走行技術等の開発・普及の促進
- ⑨地理空間情報とＩＯＴを活用した林業の成長産業化の促進
- ⑩i-Constructionの推進による３次元データの利活用の促進
- ⑪中小企業・小規模事業者の研究開発・サービスモデル開発の推進

５．Ｇ空間社会を世界に広げる

- ⑫電子基準点網及び準天頂衛星システムを活用した高精度測位サービスの海外展開
- ⑬地理空間情報の循環システムの形成

✓